
糖尿病透析患者における週 1 回デュラグルチド(Dula)の有用性と安全性-CGM による検討

医療法人衆和会 長崎腎病院 長崎腎クリニック
東京慈恵医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科

○船越 哲 小峯麻耶 江藤りか 矢野未来 大津留更 一之瀬浩 佐々木修 澤瀬健次 河津多代 原田孝司
橋口純一郎
森豊 宇都宮一典

【目的】

維持血液透析患者における長時間作用型 GLP-1 受容体作動薬, Dula の有用性と忍容性を検討する.

【対象・方法】

当院にて維持透析中で, 十分な自己インスリン分泌能(CPR>5.0)を有する 2 型糖尿病の患者に対し, GLP-1RA を含まない治療から Dula0.75mg の週 1 回投与に切り替え, 前後 3 週間における 5 日連続 CGM で比較, また消化器毒性などの忍容性につきけんとうした.

【結果】

対象症例は 19 名(男性 13 名, 女性 6 名), CGM で測定した平均血糖変動幅 MAGE は切り替え前; 84.1 ± 25.1 mg/dl, 後; 67.0 ± 19.1 mg/dl と有意に低下した. 消化器毒性は 4 名に出現したが, 一時的な Dula 減量対応可能であった.

【考案】

Dula 週 1 回投与は, 糖尿病透析患者における血糖変動を安全に抑制可能と思われた.